

マーケットレポート

インド準備銀行が予想外の利下げを実施
～物価の落ち着きを勘案、成長支援に舵切り～

◆政策方針を「引き締め」から「中立」に変更

インド準備銀行(以下、中銀)は2月7日の金融政策委員会で、政策金利であるレポ金利を6.5%から6.25%へ、リバースレポ金利を6.25%から6.0%への引き下げを決定しました。中銀は2018年6月と8月に2度の利上げを実施していました。利下げは1年半ぶり。中銀は声明文で今後の政策方針を従来の「引き締め」から「中立」に変更しました。

今回は2018年12月に就任したダス新総裁のもとでの初会合でしたが、金融市場では金利は据え置きとの見方が優勢でした。

◆当面、物価は落ち着いた推移に

インドの2018年12月の消費者物価は、前年同月比で+2.19%と1年半ぶりの低い伸びとなりました。中銀は声明文で今後も食品価格が幅広い品目で下落を続ける可能性があるとして指摘し、2019年4-9月期の物価見通しを従来の+4%程度から+3%台前半に下方修正しました。また、昨年末にかけて生産や自動車販売が弱含んだことを指摘しており、当面は物価の落ち着きが見込まれる中、経済成長を支援する姿勢を強めた模様です。

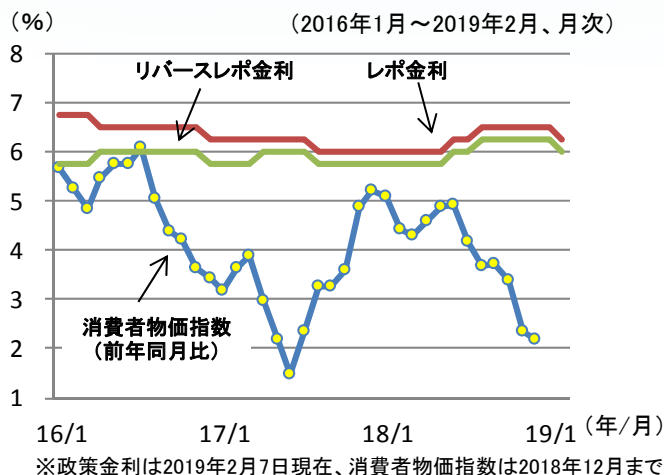
◆金融市場の反応、今後の見通し

前任のパテル総裁は2018年12月、10カ月近くの任期を残して突如辞任しましたが、金融緩和を求めるモディ首相と対立したことが背景との見方が大勢でした。元財務次官のダス新総裁はモディ首相の信頼が厚い人物と見られており、今回の会合での判断が注目されていました。

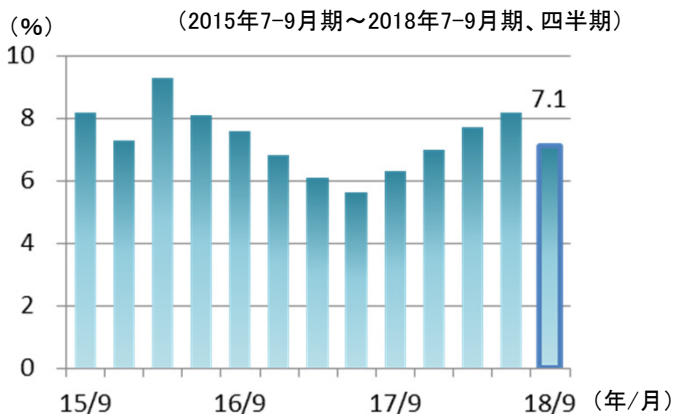
7日の海外市場では、利下げ後のインド・ルピーは横ばい圏での推移となりました。12月の前総裁辞任時は一時インド・ルピーやインド株式が急落しましたが、今回の利下げは金融市場で一先ず受け入れられたと言えそうです。

中銀は声明文で2018年10月-2019年3月期の成長率見通しを+7.2~7.3%、2019年4-9月期は+7.5%としました。当面は景気、物価の動向を注視していく姿勢と見られ、インド・ルピーはもみ合い推移が続きます。

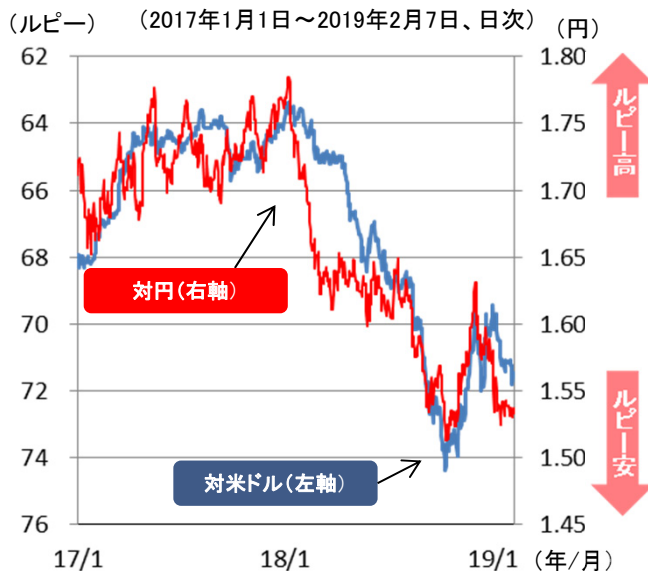
政策金利、消費者物価指数の推移



実質GDP成長率(前年同期比)の推移



インド・ルピーの推移



(出所) Bloombergのデータを基に三井住友トラスト・アセットマネジメント作成

【ご留意事項】

- 当資料は三井住友トラスト・アセットマネジメントが投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様へ帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他の一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。